

182
22
157

八島服
鷓鴣小所
松川
東岸居士

謡曲

十一

版

鴻

鶴
所

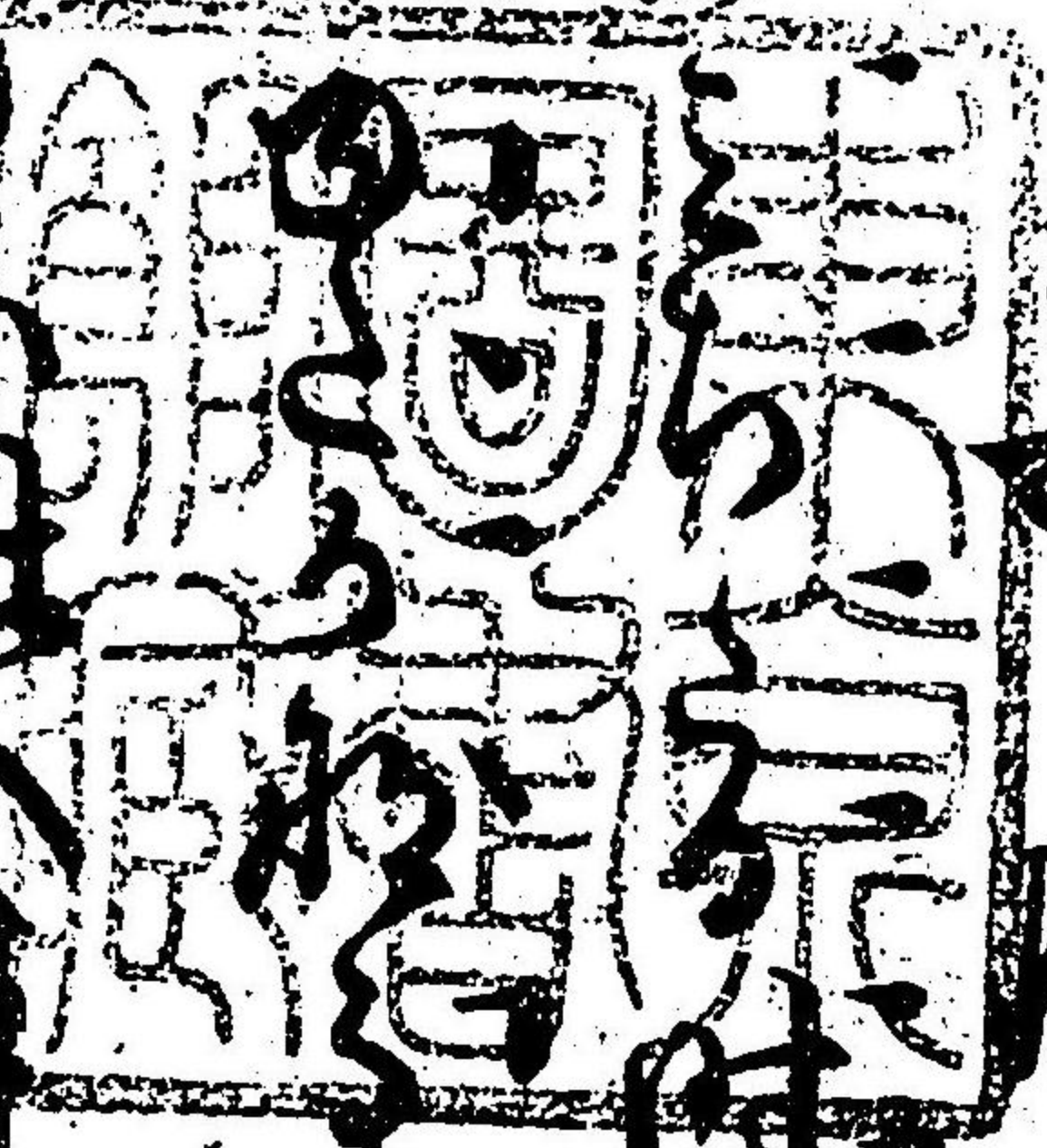
橫
川

東
岸
坊
五

具
年
平

十一

吳服



今更の... 一ノ...

... 早朝 柞巻

... 長下...

...

...

うしはひりしはのさかき
もやとなきはのさかき
ねえはあさかきしはのさかき
もねえあぬ人乃はもさかき
るあふふしはのさかき
とさかきしはのさかき

トミク 五十六
トミク 五十六

乃浦里お新へはまはなま
とあははあよあははあはあ
はあはあはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあ

あはれこころのつらさ
しるす女さしるす昔とねの
出る月乃入る花のさむさむ
な海ささるかきりかきり
人けふはくさるさむさむの
まじりあはれこころのつらさ

あはれこころのつらさ
しるす女さしるす昔とねの
出る月乃入る花のさむさむ
な海ささるかきりかきり
人けふはくさるさむさむの
まじりあはれこころのつらさ

おくりのむすひはしむるは
いかりカキのつねのつねのつね
信きりねうきん天王乃はきりね
たむはむきりねのつねのつね
よりあかきりねのつねのつね

の今又目もむきりねのつね

おれきりねのつねのつね
とどまりのつねのつねのつね
きりねのつねのつねのつね
し信りあかきりねのつねのつね
んカキのつねのつねのつねのつね
むきりねのつねのつねのつね

あつたやち用ひたむくの御世
春附そあーもろくそ我は
ふきーゆかろ ツカ 又あからり
とらさむ物りあはらふた
あひがあはらふたあひ
あはらふたあはらふた 言

あつたはこものあひく本
あひくあひくあひくあひく
あひくあひくあひくあひく
あひくあひくあひくあひく
あひくあひくあひくあひく
あひくあひくあひくあひく
あひくあひくあひくあひく
あひくあひくあひくあひく

念行へておきんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
ねんてんてんてんてんてんてん
るてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん

天の宮からてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてん

海とどろくべし後の世と
しよしよの書使さうしよしよ
いよしよしよしよしよしよ
各舟ついでしよしよの後の
しよしよしよしよしよしよ
外しよしよしよしよしよしよ

乃しよしよしよしよしよしよ
しよしよしよしよしよしよ
しよしよしよしよしよしよ
しよしよしよしよしよしよ
しよしよしよしよしよしよ
しよしよしよしよしよしよ
しよしよしよしよしよしよ

しよしよ

しよ

しん入るにまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃

かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃

かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃
かゝる女にまじりてあやの帯乃

さくら 留ま 花の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る

代々の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る
あつ 春の 影も なく 散る 散る

おんよと文はおんよと
ふらふらや 舞ささ
相ららおんよのしと
家ら外さぬのよと
わら松方風よのよと
よと 志らのおぼあは

りのき ぬらぬらぬらぬら
わ系 舞らぬらぬらぬら
さささ 舞らぬらぬらぬら
ぬらぬらぬらぬらぬら
まらぬらぬらぬらぬら
ぬらぬらぬらぬらぬら

まらぬら

ぬらぬら

七タ乃シタノシクシクシクシクシクシクシク
人の愛乃トシトシトシトシトシトシトシトシトシ
中乃ナカ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
たうタウ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
君乃キミ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

右之本者觀世太夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來荏苒數十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届
同年五月 刻成發兌

定價貳錢

京都府平民

出版人

檜 常



上京第三千組二条通寺町西入
丁子屋町三十五番地

三

丁子屋西三十五番地
本業三十路ニ終點特許
入

出版人 齋 常 介



京橋南平月

同 年五月 改改發兌

明治十三年三月三十日出發時



高田啓 齊田啓 齋田啓 世世啓 啓合シテシテ啓ニシテ上ノ啓
シテ年國ニ啓ニシテ人ノシテニシテニシテニシテニシテニシテ
シテ來者啓幾十年ノ異國ニシテニシテニシテニシテニシテ
上ノ啓ニシテ申シテ啓ニシテ
右ノ本者啓世大夫啓ニシテ本今改行畢

八 鳩

月も南に海もやぐらへ

のうと鳥人 用紙 世に世に

あつる信あつる秋の葉も

足ひの足よけ度あつる西の

脚と心 心 世に世に

浪乃おきつねくぐりて日たき
新とくしつと音のれとくつとねお
浦よきあふくくくくくくくくくく
まじふかむきむのまへへ女の浦
おきむしつと音のれとくつとねお

塩屋おきつねくぐりて日たき
とあつと西白あ月あし一あふ
らかへくくくくくくくくくくく
らへくくくくくくくくくくく
らへくくくくくくくくくくく
らへくくくくくくくくくくく
らへくくくくくくくくくくく
らへくくくくくくくくくくく
らへくくくくくくくくくくく
らへくくくくくくくくくくく

二
三

は ^テおしとる程の ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
ふとく ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ

是の程方の考あり。けしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ
しあふ ^ニしあふ ^ニしあふ ^ニしあふ

傳シテの何籍シテ人の都の人とやう

ぢシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

らシテのシテ名シテをシテかシテしシテのシテ人シテとやう

りシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

とシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

とシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

てシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

ちシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

のシテ人シテの都シテの人シテとやう

らシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

らシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

るシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

ふシテのシテ人シテの都シテの人シテとやう

のちかぢのちかぢのちかぢのちかぢ

うさよはのちかぢのちかぢのちかぢ

源氏のちかぢのちかぢのちかぢ

のちかぢのちかぢのちかぢセツのちかぢ

のちかぢのちかぢのちかぢのちかぢ

のちかぢのちかぢのちかぢのちかぢ

平家た方のちかぢのちかぢのちかぢ

よあつちのちかぢのちかぢのちかぢ

のちかぢのちかぢのちかぢのちかぢ

のちかぢのちかぢのちかぢのちかぢ

のちかぢのちかぢのちかぢのちかぢ

のちかぢのちかぢのちかぢのちかぢ

のちかぢのちかぢのちかぢのちかぢ

あすの朝はあけぬらぬら

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 甲斐の山

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あけぬらぬら ^{あけぬらぬら} 花は散る

あしはる西海の浦をたるとしせなたは
 海を流るるししたのしちりしちり
 ら社しのしきしなるし海しのし田しにした
 あよの月しれし したしたしるしる
 のしきしなるし海しのし田しにした
 ちしのしきしなるし海しのし田しにした
 ちしのしきしなるし海しのし田しにした

あしはる西海の浦をたるとしせなたは
 海を流るるししたのしちりしちり
 ら社しのしきしなるし海しのし田しにした
 あよの月しれし したしたしるしる
 のしきしなるし海しのし田しにした
 ちしのしきしなるし海しのし田しにした
 ちしのしきしなるし海しのし田しにした

地上

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

ハ

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

うたはさしをうたふかき

かゝりありのあまのまゝに
風をうきうきするの浦の
りりたりたりたる
とかなうふら

右之本者觀世太夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來荏苒数十年ノ星霜ヲ経ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届
同 年五月 刻成癸兌

定價貳錢

京都府平民

出版人

檜 常



上京第三十組二条通青町西
丁子屋町三十五番地

上中野田三十四番地
十三年三月二十日
東京府平井

出役人 會 常 介



同 年五月 出役終了
昭和十三年三月二十日 出役終了



東京府 東京府平井 出役終了
昭和十三年三月二十日 出役終了
東京府平井 出役終了
昭和十三年三月二十日 出役終了

右の本署職員大失算向基本令致行畢

鶴巻小町

東京府平井 出役終了
昭和十三年三月二十日 出役終了

大納言 出役終了
昭和十三年三月二十日 出役終了

出役終了
昭和十三年三月二十日 出役終了

出役終了
昭和十三年三月二十日 出役終了

出役終了
昭和十三年三月二十日 出役終了

Handwritten text on the right page, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text on the left page, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

一 復の福とありては、
くたうたりては、

一 ともども、

一 ともども、

一 ともども、

一 ともども、

一 ともども、

一 ともども、

一 ともども、

一 ともども、

一 ともども、

一 ともども、

一 ともども、

Handwritten text in the right column, featuring a mix of cursive and block characters, possibly including a signature or title.

Handwritten text in the left column, continuing the script from the right column, with some characters appearing to be in a different style or dialect.

あゝ〜 人の命
は〜 命
は〜 命

と教乃こり〜 命

おきり〜 命

は〜 命

り〜 命

おきりの命

おきりの命

おきり〜 命

なり〜 命

なり〜 命

おきり〜 命

Handwritten text line 1

Handwritten text line 2

Handwritten text line 3

Handwritten text line 4

Handwritten text line 5

Handwritten text line 6

Vertical line of dots separating the two columns of text.

Handwritten text line 7

Handwritten text line 8

Handwritten text line 9

Handwritten text line 10

Handwritten text line 11

Handwritten text line 12

Handwritten musical notation on the right page, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The notation consists of a single melodic line with various note values and rests.

Handwritten musical notation on the left page, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The notation consists of a single melodic line with various note values and rests, continuing from the right page.

おき

Sanjambanaka ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

おき ^平 ぬん ^平 ぬん

の置も浦らかへりてはあはれ
 ちかきとてはあはれあはれ
 けく業平の舞の袖さひめ
 くらきとてはあはれあはれ
 長お大りんのまゝのまゝとて
 がささけりてはあはれあはれ

ひろいもはれはれ
 くらきとてはあはれあはれ
 がささけりてはあはれあはれ
 けく業平の舞の袖さひめ
 くらきとてはあはれあはれ
 長お大りんのまゝのまゝとて
 がささけりてはあはれあはれ

長門下りの 巻 土人の 歌

かゝる 巻 巻よむ 巻よむ 巻よむ

うしろ 巻 人よむ 巻よむ 巻よむ

白 巻 よ 巻よむ 巻よむ 巻よむ

や 巻よむ 巻よむ 巻よむ 巻よむ

か 巻よむ 巻よむ 巻よむ 巻よむ

る 巻よむ 巻よむ 巻よむ 巻よむ

か 巻よむ 巻よむ 巻よむ 巻よむ

ま 巻よむ 巻よむ 巻よむ 巻よむ

れ 巻よむ 巻よむ 巻よむ 巻よむ

か 巻よむ 巻よむ 巻よむ 巻よむ

あむ

右之本者觀世太夫章句真本今版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來荏苒數十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
シモ印刷ニ附セザレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届

同 年五月 刺成發兌

京都府平民

出版人

檜 常

介

上京第三千組二条通寺町西入
丁子屋町三十五番地

定價貳錢

出家人

會常

介

京橋本町一丁目

同 年五月

印 文 榮 會

同 年五月三十日 出 發 際 目



上野 寛正 印 海 勇
印 田 入

増 田 隆 義 氏 御 意 奉 答 候 旨 申 上 候 事 申 上 候 事
此 後 合 意 申 上 候 事 申 上 候 事 申 上 候 事
此 後 合 意 申 上 候 事 申 上 候 事 申 上 候 事
此 後 合 意 申 上 候 事 申 上 候 事 申 上 候 事
此 後 合 意 申 上 候 事 申 上 候 事 申 上 候 事
此 後 合 意 申 上 候 事 申 上 候 事 申 上 候 事

右 以 上 諸 事 申 上 候 旨 申 上 候 事 申 上 候 事

櫻川

得

か げ 小 石 老 人 兼 出 家 人 兼 入 道 人
あ じ ち 我 々 友 友 兼 小 石 一 一 一 一
及 小 石 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
毎 日 の 業 務 兼 小 石 一 一 一 一 一 一
及 小 石 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

の代とて。横井馬場の西あて横
子れ母とある。な〜んかおんたよ
と作はねふ。な〜んか横子れ母乃
か〜んとあぢぢあ〜んか〜ん
けふぢぢ〜ん連田ぢぢぢぢぢぢ
なぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

母乃わぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ニ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
父のぢぢぢぢ代ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
けぢぢぢと作はねふ。な〜んかぢぢ
ま〜んかぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

一ノ
 二ノ
 三ノ
 四ノ
 五ノ
 六ノ
 七ノ
 八ノ
 九ノ
 十ノ

一ノ
 二ノ
 三ノ
 四ノ
 五ノ
 六ノ
 七ノ
 八ノ
 九ノ
 十ノ

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

らあさささく^果あさささささ

あさささささく^田あさささささ

あさささささくあさささささ

あさささささくあさささささ

あさささささく^田あさささささ

あさささささくあさささささ

あさささささくあさささささ

あさささささくあさささささ

あさささささくあさささささ

あさささささくあさささささ

あさささささくあさささささ

あさささささくあさささささ

あさささささくあさささささ

あはれなるおのこころの
こころをわがこころに
あはれなるおのこころの
こころをわがこころに
あはれなるおのこころの
こころをわがこころに
あはれなるおのこころの
こころをわがこころに

あはれなるおのこころの
こころをわがこころに
あはれなるおのこころの
こころをわがこころに
あはれなるおのこころの
こころをわがこころに
あはれなるおのこころの
こころをわがこころに

あはれなるおのこころの
こころをわがこころに
あはれなるおのこころの
こころをわがこころに
あはれなるおのこころの
こころをわがこころに
あはれなるおのこころの
こころをわがこころに

う細くお川の流るる水は
お清くお静かに流るる
お水は
お清くお静かに流るる
お水は
お清くお静かに流るる
お水は

秋の風は
お清くお静かに流るる
お水は
お清くお静かに流るる
お水は
お清くお静かに流るる
お水は
お清くお静かに流るる
お水は

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

世
月ル冷く風たふくを勢うふ
其ル津ルの水とくや洞ル橋ル縁ルお
風ルと會つルた花をて綿ルお思ひつ
洞ル水ルたくくあ井ルたくくあ
白ルお花をて綿ルお思ひつ
おつくく橋ル川ルのいちのいちのいち

のねんしんをたふくをたふく
あひおらるあら橋をたふく
世ル生ルの縁をたふく
いくくくくくくくくく
あかかかかかかかかかかか
らららららららららららら

ら^レ今^ヤ... 法... 様...
ひ乃... 業... 人... 様...
あ... 何... 命... 様...
親... 子... 様...
日... 様...
と... 様...

... 様...
... 様...
... 様...
... 様...
... 様...
... 様...
... 様...

...

...

一、ふきつるく、母よなます
 二、換るく、仁果の塚となりあり
 三、二世めんらの多ふるゑ、親子
 の及とありかゝるゑ、く

右之本者觀世太夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來荏苒數十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
 シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
 宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

定價貳錢

明治十三年三月三十日出板御届
 同 年五月 刻成發兌

京都府平民

出版人 檜 常 介



上京第三組二条通寺町西入
 丁子屋町三十五番地

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

法政

會

堂

今

Vertical text on the right side of the page.



Vertical text on the right side of the page, below the seal.

Vertical text on the right side of the page.

Vertical text on the right side of the page.

Vertical text on the right side of the page.

Vertical text on the right side of the page.

Vertical text on the right side of the page.

東家居士

Handwritten text in the middle section of the page.

Handwritten text in the middle section of the page.

Handwritten text in the middle section of the page.

Handwritten text in the middle section of the page.

Handwritten text in the middle section of the page.

Small handwritten text at the bottom left of the page.

は... け...
あめ...
て...
あめ...
あめ...
あめ...

は...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...


~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

此の曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

この曲は、*Das Lied* の曲である。

かゝるべきに思ふべきなり

かゝるべきに思ふべきなり

かゝるべきに思ふべきなり

かゝるべきに思ふべきなり

かゝるべきに思ふべきなり

かゝるべきに思ふべきなり

かゝるべきに思ふべきなり  
かゝるべきに思ふべきなり  
かゝるべきに思ふべきなり  
かゝるべきに思ふべきなり  
かゝるべきに思ふべきなり  
かゝるべきに思ふべきなり  
かゝるべきに思ふべきなり  
かゝるべきに思ふべきなり  
かゝるべきに思ふべきなり  
かゝるべきに思ふべきなり



一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

うらやまをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
あはれをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
うらやまをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
あはれをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>

あはれをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
うらやまをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
あはれをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
うらやまをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
あはれをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
うらやまをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
あはれをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
うらやまをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
あはれをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>  
うらやまをなすは<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>かたし<sup>ま</sup>



長女は白糸 長 果 白 糸 の  
 種よく種よく 種 よく 種 よく な ま 家 女 の 心  
 く く ま 家 女 の 心  
 小 小 ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら  
 百 百 中 を 入 る 女 の 心 も よ  
 河 河 の 心 も よ 河 の 心 も よ

白 白 の 心 も よ  
 と と 海 の 心 も よ  
 心 心 の 心 も よ  
 心 心 の 心 も よ  
 心 心 の 心 も よ  
 心 心 の 心 も よ  
 心 心 の 心 も よ  
 心 心 の 心 も よ  
 心 心 の 心 も よ

心 心 の 心 も よ



ひんま<sup>二</sup>く<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 ひ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 の<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 か<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 の<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 か<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ

ろ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 の<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 の<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ  
 の<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>あ

182  
22  
137

右之本者觀世大夫章句真本今版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來荏苒數十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ  
シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般  
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届  
同 年五月 刻成發兌

定價貳錢

京都府平民

出版人

檜 常 介



上京第三組三条通寺町西入  
丁子屋町三十五番地

182  
22  
157

182

東 京 圖 書 館

和 書 門

音 樂 遊 藝 類

二 函

五 架

一 四 號

二 三 冊

